

# もうかる漁業創設支援事業実証結果報告

## 【但馬漁業協同組合】

実証期間:平成20年9月1日～平成23年8月31日

常設活魚倉を設置した改革型小型漁船(ベニズワイかにかご漁船19ト)を用船し、漁獲物の高品質化により付加価値向上を図るとともに、乗組員の安全性向上のための操業体制の構築について実証事業を実施した。また、資源回復計画に基づきベニズワイガニ資源を持続的かつ効率的に利用するための取り組みも併せて行った。



### 実証項目

#### 【生産に関する事項】

①19ト型小型漁船の利点(省コストなど)を維持した上で、漁獲物の高品質化と作業性・安全性の両立を実証

②資源管理の推進

#### 【流通・販売に関する事項】

①販路の拡大



### 実証結果

#### 【生産に関する事項】

①・常設活魚倉と自動温度管理機能付き冷水製造装置を設置し活ガニの生産割合増加

(活ガニ生産割合:平成19年度0.3%→3カ年平均0.9%)

・船尾モリタリングシステムの有効利用により、乗組員の安全を確保  
・機関室モニタリングシステムの利用により機関の保守点検を強化し修繕費を削減

②漁獲努力量の削減の取り組みとして「日本海沖合ベニズワイガニ資源回復計画」により、毎年1ヶ月間の自主休漁を実施

#### 【流通・販売に関する事項】

①・流通販売事業者と連携し、地域イベントに参加するなどPR活動を展開

・兵庫県認証食品にベニズワイガニが認定され「ひょうご安心ブランド農産物」の商談会出展などにより販路を拡大

### 収益性の改善について

上記のとおり実証項目について、一定の成果を得た。

小型漁船に必要な最低限の機器を効率的に配置し、作業環境を改善するとともに、乗組員の安全性を確保した上で活ガニを増産する等の取組みにより、実証期間中ベニズワイガニの相場が落ち込んだにも関わらず改革前比9%平均単価が向上し、収益性の改善が図られた。その結果、実証期間である3年間を通して改革計画を上回る償却前利益が得られた。

今後、当該地域におけるモデルケースとして普及啓発を図っていく。



香住ガニのタグ(右上写真は裏面)